

十神山



会報 安来節

YASU GI BUSHI

発行所 安来節保存会

☎ 692-0064
島根県安来市古川町 534
TEL 0854-28-9988
FAX 0854-28-9393
http://www.y-hozon.com/
E-mail:admin@y-hozon.com



安来節と私

資格審査員

矢倉 哲郎
(尾高支部)

私が安来節を始めたきっかけは「銭太鼓」です。昭和五十一年に地元公民館で銭太鼓教室が開催され参加した事から始まりました。通っているうちに安来節の唄を理解する必要性を感じ、すぐに安来節保存会に入会しました。それ以来、銭太鼓、唄、鼓、絃、太鼓に挑戦し、いずれもその奥の深さと素晴らしさを痛感し、益々安来節の魅力にはまり、現在に至っております。

また、日本舞踊や山陰及び全国の民謡舞踊(民舞)を習う機会に恵まれ、熱心に励んで参りました。中でも大相撲の殿堂、両国国技館で開催された日本民謡協会主催の「民謡舞全国大会」で踊り手の一人として出場し、我がチームは第三位を獲得する事が出来た事はとても貴重な体験でした。

安来節や舞踊を継続して取り組み、国内をはじめ海外公演にも参加する事が出来、多くの方々喜んで頂きましたのも諸先輩並びに諸先生方の暖かいご指導としてご厚情を賜ったお陰です。心からお礼と感謝を申し上げます。

この様に芸道に邁進して来

られたのも銭太鼓に出会ってからこそであり、その縁は私にとって絶大なものでした。

安来節保存会の会員数が減少傾向にある現状に鑑み、子供さんから大人まで一人でも多くの方に銭太鼓に触れて頂き銭太鼓人口を増やすことが何よりと思います。

最近話題の書道パフォーマンス甲子園やダンス甲子園など高校生が同じ目標に向かって青春を捧げる姿に感動を覚えますが、その中に安来節の伝統を生かした銭太鼓パフォーマンスとして大々的に安来の地で「銭太鼓競演全国大会」を開催できる時代が来る事を夢見しています。それが実現出来れば全国に安来節愛好者がどんどん増加し益々安来節保存会の発展につながるものと思えます。

保存会会員の皆様、銭太鼓未経験の方は一度体験してみてください。また新しい身近な方にも銭太鼓へのお誘いのお声かけを是非、宜しくお願い致します。

最後になりましたが今後とも伝統ある安来節の普及と発展に貢献すべく努力させて頂く所存でございます。

鉄積んで上のぼる

—— 松江藩のたたら製鉄 ——

並河 健蔵

民謡・安来節の「師範用字余り選定歌詞」の中に、よく知られた次のような歌詞がある。

安来千軒名の出たところ

社日桜に十神山

十神山から沖見れば

いづくの船かは知らねども

滑車のもとまで帆を巻いて

ヤサホヤサホと

鉄積んで上のぼる

この歌詞は安来の港が、江戸時代に松江・松平藩のもとで和鉄の積出港として栄えたことを、大らかに賑やかに物語っている。そこでその時代の和鉄生産と販売の様子を調べてみよう。

松江藩は元禄時代が終って享保年間(一七一六〜一七三六)の頃から藩の財政が逼迫してきた。第六代藩主・松平宗衍の時代に藩政改革に取り組み、次の代の松平治郷(不昧)

(一七五二〜一八一八)に移ってから、家老・朝日丹波郷保が「御立派の改革」を実行した。その特徴は、

これまでの産米に頼る財政体質を脱却して、新たに多くの産業振興策が推進されたことである。例えば木綿・煙草・ハゼ蠟・薬用人参などがあげられるが、特に「たたら」製鉄は民間の活力を生かしながら藩は品質管理、流通販売、金融支援などの施策

を行って、全国的にも優れた産業に成長させたのである。

たたら製鉄は奥出雲の田部家、桜井家、絲原家などの鉄山経営者が、藩から鉄師頭取として経営を任された。この鉄師たちは大規模な山林地主であり、たたら製鉄に必要な砂鉄の採取や木炭の供給は、長期にわたり自前で調達できる体制にあった。生産された和鉄は、安来の港に運ばれて各方面に移出された。

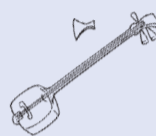
安来の港町は、古くから米問屋・鉄問屋をはじめ木綿・蠟・塩の問屋、回船問屋などが軒を連ね、松江藩が推し進める産物の集積地となった。従って物資の流通は商人の交流の場となり、料亭や旅館が賑わった。松江藩はその業務が円滑に機能するために、文政七年(一八二四)藩の保護のもとに為替蔵が設けられた。これは金融機能をもっており、山陰地方でも最も古く、現代の金融機関のルーツであるといつてよい。

ところで出雲地方で生産された和鉄の販路はどの方面であったのか。当時の交通機関は海上交流であり、江戸時代中期からは、北海道から日本海、瀬戸内海を通り大阪へ至る航路とする北前船で運搬された。特に荷を軽くして北海道の松前へ帰る北前船にとって、和鉄の積み込みは、安全に航海するための底荷として重宝であったという。

そこで伝統的な刃物産地として知られる新潟の三条地方の例をあげてみよう。信濃川と五十嵐川の合流地点にある三条は、近世初期から農家の副業として和釘製造を始めた後、新田開発が進むにつれて鎌や鍬などの農具の生産が盛んになった。河川交通の便利なこの地域には、次第に鍛冶屋が集積し、これを支える金物問屋が組織されて、品質管理や金融支援を行った。製品の販路は主に関東や東北地方に広がった。この鍛冶生産の材料は、外ならぬ出雲の和鉄が、北前船で運ばれ、信濃川を川船でのぼり、三条に運ばれたのである。新潟地方には出雲崎という地名があり、古くから交流があったものと推測されるが、松江藩にとっては、北前船による海上輸送が可能であったことと、三条での大量需要が続き、強力な支援が効を奏したのであったろう。

さてこれ程までに山陰の和鉄を使って鍛冶産業が発達したのであれば、松江藩も和鉄の生産販売に留まらず、領内の農家に働きかけて刃物生産に乗り出し、付加価値をつけて販売すれば、藩財政の改善に大いに貢献したのではないかと思う。しかし三条の例を見るまでもなく、組織的な生産体制や広域の需要層をもたない松江藩としては、そこまで思い到らなかったであろう。また多岐にわたる産業政策の実施で、それなりの成果を上げることが出来たのであろう。それについても冒頭にあげた安来節の名調子を聞きながら、鉄の積出港として賑わった安来の町の往時を偲びたいものである。

私と安来節



石崎 和子
(尾高支部)

この度、光栄にも唄准名人に昇格させて頂き、この栄誉に対し身の引き締まる思いで一杯で、御座います。これも偏に保存会の皆様方のご厚情とご指導の賜物と深く感謝申し上げます。

私と安来節との出会いは、私の実家の地域で公民館活動として、銭太鼓教室が開かれ入会させて頂きました。安来節のテンポが判らず銭太鼓が打てなく、安来節の唄を習い始めたのが発端でした。

安来節の右も左も判らない私達崎津公民館安来節同好会の八人が昭和五十二年に安来節保存会尾高支部に入会しました。



田村 実
(関西支部長)

この度、関西支部設立三十周年の記念すべき年に安来節保存会より榮譽ある絃准名人を賜りました。これも偏に先輩の先生方並びに会員の皆様の温かい御支援、御指導の賜と深く感謝しております。

関西支部は昭和五十七年五月に設立し、これまで三支部(和歌山、飯

入会しました。顧みますと唄を始めて三十八年目になります。当初ご指導下さった先生方は大変だったと今になって思います。

今は亡き絃大師範の安藤喜春先生、唄名人中井良夫先生、現在資格審査長の中本實夫先生を始め尾高支部の先輩方のご指導を頂いたことに感謝申し上げます。

私には当初からの良き仲間があります。資格審査員で鼓准名人の矢倉哲郎先生、絃准名人矢倉義法さん、唄准名人矢倉紀子の妹夫婦と心強い仲間と一緒に頑張ってきました。

また、今日まで安来節を続けさせてくれた家族に心から感謝しています。今後は、更に精進を重ね微力ではありますが、保存会発展の為精一杯尽力して参りたいと思っております。ご指導、御鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。

南、神戸)がめでたく独立しました。現在二百五十名の大支部で、これまでに安来節全国優勝大会で多数の優勝者、入賞者を出している伝統ある支部でございます。

私は安来節を習い始めたのが五十年前、生まれ故郷の安来市と安来節を愛し続けて参りました。今は亡き師匠の教えを大切に更に精進を重ね、少しでも多くの人達にこの素晴らしく、奥の深い日本の民謡安来節を楽しんでいただける様、力を注ぎたく思っております。どうか今後ともより一層の御指導、御鞭撻を賜ります様、お願い申し上げます。感謝



高下 幸恵
(米子支部)

想えば今から三十二年前、二十九歳の時、娘二人がまだ幼いながら少し手が離れた頃でした。松岡さんに安来節を習わないかと勧められ、上道道場について行きました。その日は七、八人の方がおられました。親よりもちよつと年上のおじさん、おばさんが生き生きと楽しそうに安来節を唄い、三味線を弾いておられ、その場の和やかな雰囲気も気に入って、仲間に入れてもらいました。石倉寿郎先生には厳しく丁寧な指導していただきました。教室日以外の時はとても優しい人でした。審査が近づくといつとなく先生の家に通いました。子供が幼くて家庭においたまま出掛けにくかった時も「一緒に来たらいい」と先生の言葉に甘えて連れて行くとジューズとお菓子が用意してありました。

資格審査、優勝大会予選会と皆生の温泉会館には娘二人を連れてよく通いました。娘達も舞台から降りると側でいつも笑って待っていてくれました。隣に温水プールと公園があったのでそこも楽しみの一つの様でした。

昭和六十三年に唄で准師範の資格を取る事が出来ましたが、家庭の事情で支部を脱会し、平成十二年に再入会しました。それから三味線を始め、松岡先生に習っています。准師範を取る事は出来ましたが、これが大変で地道に少しずつ練習に励んでいます。唄もまた始め、いつか師範挑戦出来る様に頑張ります。

巡業 〓東京荒川公演〓 運だめし!

「出雲街道民謡 文芸会初公演」



出雲街道民謡交流会主宰

渡部 孝夫
(本部道場)

安来節保存会101年目

平成23年は安来節保存会100周年を迎えて、盛大なイベントが行われました。私は、これからの安来節保存会が発展するために何か行動を起こさねばならないと思いましたが、かつて安来節が熱狂的な人気があった頃に歌われていた安来節を若い人たちの力で少しでも復活できないか。こんなことを考えて会を立ち上げ、平成24年9月、2日間東京荒川で4回ステージをおこないました。全く成算もなく甚だ無鉄砲と言われるくらい計画でした。

古くから上方へは隠岐、出雲の高級食材が輸出されていきます。干しアワビやさざえ、乾燥した海藻、生きたウナギなどの海産物。戦が無くなつて平和になった江戸は贅沢になつて上方も同じように食事が贅沢になっていきました。この頃、ウナギは生きたままこの街道を運ばれています。ひと呼んでウナギ街道と言っていました。

大変なとまどいで返事がなかなか届きませんでした。私はこの返事が届くまで、どんなメンバーになるか楽しみにしていました。舞台はチームワークと積極性が大切です。決定したメンバーを見ますとファイブがみなぎっていると思えました。

不安な合同練習

出演者は県内が主ですが、それでも県内は遠方から来る人、仕事を終えて遅く来る人、練習に参加できなくて特別稽古日を設定したことなど、全員が集まるのが困難でした。でも集まった人たちから練習を始めますが、誰も臨戦態勢が感じられて無駄がない稽古でした。

舞台構成と芸に対する不安

今回のテーマの一つは、安来節ブームを支えた時代の安来節を見てもらうことです。素唄は平素あまり歌われていない歌詞を歌うこと。字余りはアンコを入れること、などを指定しました。

公演の計画

舞台の予約は平成23年12月におえて、4月から出演者を募りました。往復ハガキでいきなり東京出演を依頼したものですから、受け取った人は

米子から山陰道と別れ、根雨、四十曲峠、津山、姫路を経て京大阪へ通じた街道です。(承久の乱「1221年」、後醍醐天皇が隠岐配流されて通つたのもこの街道です。)

それだけのボリュームがなければいけません。唄と踊りそして伴奏者は困りました。ほぼ全員がこれまで経験がない芸を演じなければなりません。練習する時間に余裕がありません。

全国優勝大会各地の予選が終わった6月29日が初稽古です。途中優勝大会があつて4回の合同稽古をするのがやっとなつた。出演者の中には本番に不安を持つものもいて、それを解消するためのポイント稽古を考案し実行しました。

チケット販売の苦労

地元で公演する時でも自主公演となるとチケットの販売は容易ではありません。興行主の私が東京で直接チケットを販売することは出来ません。普通は門下集団に頼るか、有名人を旗印にするか中心になる力を頼りにします。

しかし、頼りにするのは友人だけ。今回は在京の支部の皆様が大変お世話になりました。改めましてお礼を申し上げます。入場者をお世話になっていたので、めったな芸は出来ません。よほどの覚悟を決め自分を出し切らないといけません。やはり一生懸命になればひらけることもありますね。入場者は地元東京はもちろん出演者の親戚の方、ご親族、地方からも松江、米子、姫路、大阪などから応援に来てくれた方で200人余のお客さんで大盛況でした。

感激の公演

長時間の公演(120分)、不慣れた司会、急ごしらえのメンバー、なま乾きの演技、どれひとつとってもこの舞台は成功するわけがありません。しかし、やってみるものですね。不慣れもひたむきな芸はお客に通じました。一生懸命さは通じます。舞台の流れは最初、不自然さがありました。さすがは安来節保存会の芸人です。全体の流れがわかつた時、突然に「がちっ」とききましたね。舞台の袖はな

く条件は良くありませんでしたが、その場に依じた行動は誰に指示されたわけでもなく、一直線の無駄がない動きでお客を飽きさせませんでした。安来節公演を経験してこれだけたくさんの声援を戴いたことはありません。出演者の中に感激のあまり涙ぐむものもありました。

役わり

一座を組んで3泊4日。稽古日程を含めれば長期の集団行動です。一座をまとめるのも成功の鍵です。これも普段の舞台にはない役割ですが、「アドバイザー」、「舞台監督」、「男性・女性マネージャー」、「記録係」、「会計」の担当を決め、一人一人の芸を完成させるために専念できる体制をつくりました。

役割を分担したことで相互の協力体制が出来、稽古のときにお互いの芸から刺激を受けるなど自分を集中することができました。開演の間際に突然「みんな

集まってくれ」と、大きな号令が聞こえました。「舞台はみんな頑張つていこう!」。舞台監督の強力な鶴の一声がかかりました。それまで不安な気持ちでざわざわしていた空気が、「スカッ」と日本晴れになりました。

さて、問題は司会者です。堪能な人は雇いませんし自前で行かなくちゃ。事前に公演の目的も特長も宣伝する手段がないので、80席のお客に体当たりです。

このとき思い浮かべたのが、100周年記念イベントです。いまは亡き高橋祐治郎師のたんとした語りです。派手な司会の雰囲気ではなく、近所の出来事をみんなに話しているような司会でした。これで行こうと思えました!

開幕

舞台の立ち位置を決めればすぐ本番です。羽田着12時、午後2時は開演です。何処かの演歌歌手の全国ツアーみたいです。そうです、今回が

出雲街道交流会の初舞台です。巡業の第一歩のつもりで何が何でもこの舞台を成功させて、出演した皆さんをまとめ次につなげる使命と希望があります。ともかく本番は全員の気迫が途切れることがなく、出番に勢いがありました。

観客

大きな声援がありました。舞台は決してうまくやっています。芸人さんは真剣で

した。出雲の民謡をわかってもらうため一生懸命です。気が伝わって感動してもらいました。出演した全員も感激しています。お客さんと抱きあいたいぐらい感動しています。すくには会場が引きませんでした。

最終日の楽屋

こぶしが入っているような「終わった」と誰かが言っています。心がふるえているように聞こえます。真相を後で言っていました。これが最後のステージか、と思ったらこみ上げてくる感激を押しやる事が出来なかつた。と。

楽屋も気持ちが熱くなつていました。エアコンもあまり効かなく、普段以上に暑くて落ち着かない。隣の部屋では冷たい水や茶菓子を食べています。

「こらあー」お前らばかりのんで食べて、どげしたもんかや。「これはこの奥さんから皆でどうぞ。」と言っていましたよ。

つめたい水やお菓子などたくさんのもが準備してありました。このさりげない奥さんの配慮に皆は大感激です。座元旦那は口数の少ない人の良さそうな方で、ひと言、「安来節はすごいですね。」「どんなところがしょうか。」「うまく表現が出来ないけれど、やってしまおうですね。」

うちあげ

会場や料金は既にマネージャーが全て決めていきます。何

せ全員が「俺に言わせろ!」。といった会場の雰囲気です。緊張から解放されたのと、やはり達成した喜びの感情を露しているのです。

お酒の量はさほど多くはないのですが、酔いが早くて会話が交差してきました。ボリュームも大きくなりました。宿までの帰路は全員「千鳥足」です。

雑誌に掲載

公演の前に「みんなよう春秋社」の鈴木まさよ社長に連絡をして取材をお願いしていました。次の発行日がせまつていて、どうしても行けないから貴方の原稿でいいから投稿してください。と連絡が入りました。その投稿記事が11月20日の紙面に載りました。成田武士師などほかにも今回の公演に支援していただきつな

がりが出来ました。帰京後、感激さめやらない10月に反省会をしました。東京から舞台のおかみさんが、「楽しい舞台、社員一同が感謝。」といったメッセージが届きました。次の公演を望む声があつて皆さんの強い意欲を感じました。

発表会

早々簡単に巡業公演は出来ないで、平成25年に入り発



興行主考

いまの時代、興行主という職業は少ないと思います。興行の巡業、自分が企画して舞台を造ること、特に入場料金をもらつて舞台を制作する苦勞はやってみなければわかりません。常に不安の連続です。

ある方から聞かれました。「それでいくら経費が要ったかい。」と。経費の問題のほかは解決すべきことがたくさんあります。自主公演は経費の半分は自分が持つ位の覚悟を要

すること、興行先の信頼を得るだけ得るか、卒のない実行計画をたてるのが出来るか、短時間で出演者の信頼・出演者間のチームワークをつくる事が出来るか。など主宰者がやらねばならないことはたくさんありました。

興行主のまねごとをやつてみました。やつてみて初めてわかつたこと、皆が喜び礼を言ってくれたことが主宰者冥利に尽きる喜びです。

下手をすれば大やけどです。るところでしたけれど、幸いに沢山の方から支えられて、大げさに言わせて頂ければ九死に一生を得た心地です。これは主宰者として決して言葉に出してはいけません。(でも書かずにはいられません)

「首を縮め、くすつと笑い」この計り知れない喜びをかみしめています。

支 部 情 報

東北地方・ 宮城県仙台市へ 軸足を置いて



棚 橋 保
(東京支部長)

二月二十三、二十四日、仙台市の電力ホールで行なわれた、第二十一回につぼんのおどり全国大会(日本舞踊芸能協会主催)に参加してきた。これを契機の一つには仙台の芸能協会に加盟する。二つには東北地方の民謡との交流を可能な限りしていく。三つにはその中で安来節を聞いてもらい、見てもらうという形での交流を試みて行きたいと思っている。今回、芸能協会の大友壽一理事長より棚橋(尺八民謡矢下流師範矢下

珀道)へ尺八の独奏と現地民謡歌手の伴奏を要請された。独奏は秀峰岩木山(津軽富士)の四季を唄った津軽山唄、冬は真白く、春青く、夏はすみぞめ、秋錦、衣がえすあざやかさ、けだし名曲である。伴奏は岩手県民謡の名曲南部木挽唄で、これも地元の名手弓場クニさんの名調子にのせて吹くことができた。次に銭太鼓と踊りとの披露を行った。実は東京支部会員には東北出身者が多くおり、今回も総勢八名中三名が宮城県出身者で、そうした仲間が協力もあり、舞台の一角を飾る事が出来た。銭太鼓は一つには安来節と二つ目に山形県民謡花笠音頭で、こうした機会に東北地方の民謡を打つて、その事でも交流が出来たと思っ



て、品の良い踊りを軽妙な中にも持ち合わせていなければ、民謡原点の

東北地方では通用しない事も痛感した所です。終わりに被災地へのボランティア活動は、あまりの寒さの為、断念せざるを得なかった。またの機会に必ずとの思いで東京へ戻って来た。

三十周年記念大会 を終えて



曾 我 真 子
(江田島能美支部)

ひと口に三十年と言っても本当に大変な苦勞でしたが、それにも増しての喜びのあった大会だったと思っています。人と人とのつながりは興味深く大切な事だと思えます。私も安来節を始めて早や二十年が過ぎました。丁度、成人式です。石川先生の唄と三味線に魅了されての出発でした。カラ



オケ大好き人間の私は自信を持つての最初の受審でした。今思いうすだけでも冷汗や汗が出ます。「無資格から審査&大会などを

テープに残しておく良い記念になり、また勉強にもなるよ」との石川先生のアドバイスを頂き、録音を続けているテープはもう数十本になります。私の安来節の歴史です。テープを聞くと今もその時の様子が目に浮かび懐かしく思い出されます。沢山の思い出は何と言ってもいつも元氣な石川先生に出会えて安来節を始めたお陰です。そして沢山の友人に出会えた事は本当に私の宝です。これからもますます安来節大好き人間で頑張っていくと思っ

事務局からのお知らせ

安来節のしおり(平成24年度版)に誤りがございました。訂正してお詫びいたします。

【追加】

東京支部

P175

踊 三段

秋 葉 金 松

平成25年唄い初め会支部競演結果

- | | | | |
|-------------|-----|-----|-----|
| 安来市長賞 | 加 益 | 茂 田 | 支 部 |
| 安来市議会議長賞 | 斐 本 | 川 部 | 支 部 |
| 安来市観光協会賞 | 神 湖 | 道 支 | 支 部 |
| 安来商工会議所会頭賞 | 大 | 道 支 | 支 部 |
| B S S 山陰放送賞 | | 戸 支 | 支 部 |
| 足立美術館賞 | | 陵 支 | 支 部 |
| 家納喜賞 | | 東 支 | 支 部 |
| 安来節演芸館賞 | | | |



濱崎正人の 安来節銭太鼓 DVD 好評発売中

安来節.初級・中級・上級の解説.実演
舞台用・銭太鼓ショー



問い合わせ 080-6964-5349

大小鼓製造卸販売



杉本 鼓 店

住 所: 島根県松江市馬潟町360-13

電話・FAX: 0852-37-2033

E-mail: ks36013@web-sanin.co.jp

※通信販売も致しますので、お気軽にお電話ください。
修理、下取りもご相談ください。

(有)仁木三味線

製造・販売/修理 三味線・鼈甲撥・尺八・太鼓

〒240-0022 神奈川県横浜市保土ヶ谷区西久保町197-1

TEL 045(713)4319 FAX 045(741)4796

HP <http://www.syamisen.com/>